

# 論 說



## 道路改良と現内閣の政策

内務省政務次官 武藤金吉

およそ一國の交通政策に於いては、從來鐵道の新設普及といふことが最も重きを置かれて居つた。交通の幹線として鐵道の必要なことは勿論であるが、輓近自動車の利用は世界を通じて著しき發達を遂げて、鐵道と相俟つて陸上の輸送機關の最も重要な部分を占むるに至つた。否今日に於ては寧ろ鐵道を凌駕するの勢を示して居る。現に獨逸の如き議會に於いて、獨逸はあまりに多く鐵道を

敷設し過ぎたと論断する議員さへ出て來た。伊太利に於ても同様の説が盛んに唱へられて居るやうである。是は要するに自動車が交通政策上漸く其の重きを成して來た結果である。

然るに我國の道路の現状は今更ら事新しく述べるまでもない。其の路面の悪いといふことは、恐くは世界一であらう。其の他國道にして橋梁の無い箇所があるといふやうな珍奇な現象は、是れ亦世界にあまり類が無からうと思ふ。國道すでに然りである。況んや府縣道市道町村道に至つては、路面の状態は勿論、その路線の分布に於ても少しも脈絡一貫して居ない。斯の如きは苟も今日世界の文明國たる我國として、誠に遺憾千萬と言はなければならぬ。

## 二

實に道路は文化發展の上から觀ても、産業發達の上から言つても、國民の生活に缺くべからざる大動脈である。吾々は多年この道路の改良といふことを叫んで來たが、殊に最近自動車の利用の急速なる發展に伴つて、現代の交通政策に於ては、道路の改良を最大急務と信するのである。

吾々はこの多年の主張に基いて、今日は我國の財政上なほ節約緊縮を圖らなければならぬ時代ではあるが、道路の改良といふことは現内閣の政策の一つとして、是非とも實行しなければならぬと思つて居る。即ち吾輩は過般内務省に就任するや、直ちに是が具體的調査に着手し、目下銳意その歩を進めつゝあるのである。

## 三

翻つて想ふに、我國の道路の改良といふことに就ては、過ぐる大正八年原内閣に於て全國に渉る大改良の計畫を樹立したのである。それは即ち大正九年度以降三十箇年の事業として、國費二億八千二百八十萬圓を投じて、軍事國道約七十里、國道約二千里、重要府縣道約四百里を漸次に改良するといふ計畫であつて、實に此時はじめて我國の道路改良事業といふものは、秩序的實行の第一歩を踏出したのである。

斯くして此計畫に基いて、大正九年度より漸次實行の緒に就いて、同年度には二百五十萬圓、大正十年度には四百三十萬圓、大正十一年度には七百萬圓の道路改良費を國庫より支出し、大正十二年度には既定の年度割九百萬圓の二割五分を削減したる六百七十五萬圓の豫算を計上して、着々改良事業の歩を進めて來た。ところが不幸にして關東大震災の爲めに、此豫算も亦その實行額を五百六萬二千五百圓の範圍に制限せられたのである。然るに翌十三年度には更に大斧鉞を加へられて、三百五十萬圓に減ぜられ、又當初の計畫では、此事業の遂行に要する資金は、道路公債を起して之を得る豫定であつたが、其の道路公債も終に實現を見ることが出来なかつた。茲に於て、折角大正八年に樹立せられた道路改良計畫も、漸次事業の執行を繰延べるの已むなきに至つたのである。

其の後大正十四年度、同十五年度、更に今昭和二年年度の豫算に於ても、依然として緊縮消極方針の下に三百五十萬圓を以て甘んじて居る状態である。更に又之が改良事業の執行に伴つて必要な機關として、當初より道路會議を起して、道路會議々員といふものもそれ／＼任命し、此會議に於て我國道路政策の一般を審議さして居つたが、これも廢されるやうになつて、一切の計畫は單に紙上の空計

畫に止まり、各種の法規は漸く完備したけれども、事業は更に進捗を見ないといふ現状に立至つたのである。

#### 四

即ち前憲政會内閣に於ては、始め若槻氏が内務大臣の時代には、道路改良事業費の増額を要求はしたけれども、大藏省に於て一蹴されてしまつて實現を見ず、後に濱口氏の内務大臣時代になつては、道路改良費の要求すら之をしない。昭和二年度の如き十七億圓餘の大豫算を計上して居りながら、道路の改良に關する費用といふものは誠に貧弱であつて、消極を極めて、新規に補助し得る金額は僅に十萬圓、之を十線の改良にバラ撒くといふやうな状態であつて、殆んど無計畫と言つて可いのである。而して口には道路交通の改良を促進する爲めに意を須ひたと誇つて居られるけれども、吾々を以て見れば、道路政策といふものは全然閑却されてしまつた觀があるのである。

今や近く昭和三年度の豫算編成期を迎へんとして居るが、道路改良費の豫算に就ては、吾輩は十分の考慮を拂ふつもりである。既に原内閣の當時に於て、前述の如き大體計畫が出来て居るのであるから、之を基準として、財政の許す限り實現を期したいと考へる。果してその年度割の通りやるかやらぬかは今の所確定して居ないが、現内閣の政策の一として、道路改良は産業の發達、文化の進展、農村の振興、國防の充實、あらゆる方面から、忽諸に附すべからざるものであるといふ事を、如實に現はすべく十分の努力をする考である。